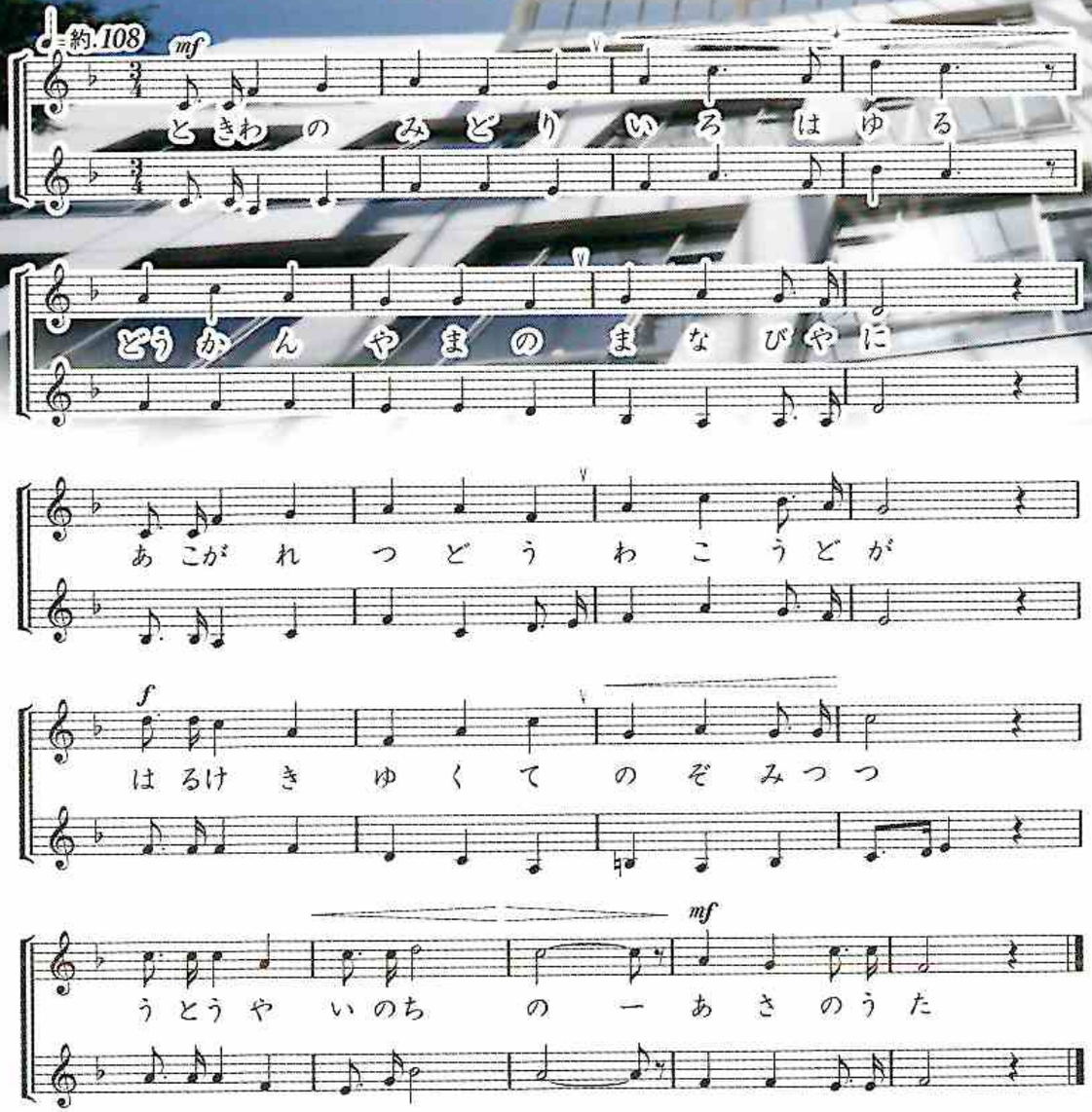
130

開成学園校歌



校歌

作詞：古関吉雄／作曲：信時潔

1　常磐の緑色映ゆる
　　道灌山の学び家に
あこがれ集ふ若人が
　　遙けき行手のぞみつつ
歌ふや生命の朝の歌

2　黎明日本の夢破り
　　文化の教開きたる
我が先人を思ふとき
　　次代を背負ふ健児等が
胸血高鳴りたぎつなり

3　基は遠き伝統に
　　若き心を培ひて
ペンと剣の旗の下
　　剛健の意気いや高く
いざや進まんああ我等

開成学園校歌とボートレース応援歌のレコード・CD化の歴史

●校歌の制定　昭和10年(1935)３月に８代校長片山正夫は、５代校長橋建三以来の懸案であった校歌の制定を決意し、作詞を国語の古関吉雄先生に依頼し６月に出来上がった。７月に音楽の平戸龍也先生は旧師の東京音楽学校教授信時潔先生に作曲を懇請した。信時先生は「海行かば」、「沙羅」、「小倉百人一首より」などで著名な作曲家である。作曲は８月に出来上がり、９月２日の始業式の当日、講堂で初演され生徒教職員一同が聴いた。

●ボートレース応援歌の由来　本学園端艇部は明治21年の創立で、大正４年はじめて対外活動として慶應普通部と隅田川において対抗レースを行った。そのとき最上級生であった小池忠一氏作詞によるこの応援歌が制定され、全校八百の生徒はこれを墨堤に高唱して必勝を期したが勝負は引き分けとなった。その後30余年間、歌詞の一部は時代の変遷につれ多少改訂されたが、年々歌い継がれて現在にいたっている。曲は当時世に歌われていた或る寮歌を模したものと言われている。

●ＳＰレコードの制作　昭和11年（1936）に校歌のレコーディングが行われた。
独唱:城多又兵衛(バリトン)
男声二部合唱：オリオンコール
ピアノ伴奏：今井治郎
コロムビアA-276（2200716）

●ステレオＥＰレコードの制作　昭和48年(1973)に開成学園生徒による校歌とボートレース応援歌のレコーディングが行われた。
校歌指揮：山田耕司(高２)
男声二部合唱：開成楽友協会合唱団
ピアノ伴奏：櫛原洋祐(高１)
ボートレース応援歌指揮：堀茂(高３)
高３ボートレース応援団／太鼓：新井康久
東芝ＥＭＩ　3ERs-444

●デジタルＣＤレコードの制作
昭和63年(1988)に開成学園生徒による校歌とボートレース応援歌のレコーディングが行われＳＰレコードも復刻された。
校歌指揮：醍醐暢輔(高３)
男声二部合唱：開成学園音楽部
ピアノ伴奏：高木誠(教員)
ボートレース応援歌合唱団／団長:伊藤清貴
ニッポン放送プロジェクトNHP-0002

開成賛歌

開成学園理事長　加藤丈夫

開成学園校歌とボートレース応援歌は、学園の行事ではもちろんのこと、ＯＢの様々な集まりでも必ず唱われることになっており、それは単なる校歌・応援歌というより、あらゆる世代を通じた“開成人の心の歌”と言って良いだろう。

このＣＤには、普段唱われているものと共に、昭和十七年に作られたややテンポの異なる校歌と、弦楽四重奏曲として編曲された東京クヮルテットの“The　Kaisei”が収められている。

私の同期生（昭和三十二年卒）で在学中はボート部員でもあった作曲家の猪俣公章は、こんなことを言っていた。

「校歌も応援歌も曲が素晴らしい。三拍子の校歌など滅多にないのだが、タン・タ・タン・タン・ター・ター・ター（ときわのみどり）……という軽快なリズムに乗るメロディが明るくスマートで、歌っていると自然に元気と勇気が湧いてくる。作曲家として、いつか自分の手で新しい開成の歌を作りたいと思っているけれど、多分今の校歌を越えるものはできないだろう。応援歌の方は、校歌とは対照的に大きな波のうねりのように、ユックリ歌うのが普通で、これがスピードを競うボートレースの応援歌なのか？　と思うが、実際にボートを漕いでいるとどんなに早いピッチでもこのリズムが合ってくる。不思議な曲だ」

一方、歌詞には二つの共通する点がある。それは、“高い理想に向かって、どんなに苦しくても自分の力で頑張り通す”という開成創立以来の自立の精神だ。殆どの開成人は、学業や仕事で大きな壁にぶつかった時知らず知らず「希望の光仰ぎつつ、ただ猛然と進むこそ、わがペン剣の教義(おしえ)なれ(応援歌第二番)」という歌詞を口ずさんでいたという経験があるに違いない。

これからも皆が校歌と応援歌に籠められた開成の心をいつまでも歌い継いでいって欲しいと思う。

三十年来の夢が実現

開成学園事務長　大野弘雄

新曲「The Kaisei」の誕生と世界初演

アンコールの曲「The Kaisei」が、青春をいとおしむように、静けさのうちに曲を終えると、しばし750人の呼吸が止まったかのような静寂が会場を包みました。しかし、直ぐに会場を揺るがすような喝采の叫びと大拍手の坩堝となりました。

新曲「The Kaisei」は、平成９年(1997)10月19日の開成中学校新校舎竣工記念コンサートで、「東京クヮルテット」によって初演され聴衆に大変な感動を与えました。開成学園の新たな文化の誕生ともなりました。

この曲はＯＢで作曲家の松井拓氏（ペンネーム：淡海悟郎／開成高校41年卒）が、この夜のコンサートのために書き上げてくれたものです。その初演は東京クヮルテットの第２ヴァイオリン、池田菊衛氏(開成高校41年卒)との厚い友情によって実現したものです。

夢の実現

開成に勤めて私は、多くの傑出した才能の生徒と出会ってきました。彼らは私の人生に多大な喜びと生き甲斐を与えてくれました。将来進むべき天職を学童時代に見つけだす少年は幸運です。池田菊衛氏も松井拓氏もそうした少年達でした。開成にコンサートができるホールがほしい。そのこけら落としは、池田菊衛氏の「東京クヮルテット」の演奏会にしたい。ついに三十年来の夢がかないました。

当夜演奏されたスメタナ作曲の「我が生涯より」といい松井拓氏作曲の「The Kaisei」といい、その後に開成管弦楽団に献呈された「祝典序曲開成」といい、まさに五十歳代の人間の味といえましょう。その知性、その雅性、その安定性に、彼等の素晴らしい人生を感じました。まさに音楽は人の心をなごやかにし、情感を豊かにし、人間性を美しくまとめるものです。このＣＤはそのことの証左でもあります。

「祝典序曲」について

松井拓

この曲の母体は昨年10月に中学新校舎落成記念コンサートで東京クァルテットがアンコールとして演奏した「The Kaisei」です。中一の時からの同級生で、大の親友、そしてヴァイオリンの天才児（そして開成での問題児）、池田菊衛君率いる東京クァルテットは、今や世界最高の弦楽四重奏団としての評価を得、ニューヨークを本拠地に世界中でコンサート活動を行っています。彼との電話のやり取りの中で「10月の開成でのコンサートを何か特別なものにしたいね」との一言から、そしてお互いのごく軽い、いたずら心から弦楽四重奏曲「The Kaisei」が生まれました。卒業から三十年以上経ても、不思議と開成の校歌は頭の中から離れません。アンコールピースの素材はこの校歌しか考えられませんでした。そして三十年来の付き合いになる事務局の大野氏との話の中で、開成管弦楽団の話を聞きました。開成にもオーケストラが……我々の時代には想像もできなかったことです。一音楽家として、また開成の卒業生として本当に嬉しい話でした。そして本日（編注：1998年４月４日）のセレモニーのためにオーケストラ曲を、という話が即、決まりました。「The Kaisei」は、あくまで弦楽四重奏のための響き、そして奏法を意識して作曲しました。そのままではオーケストラの曲として成立しません。信時潔氏のメロディーをオーケストラのために再構築して生まれたのがこの祝典序曲です。序奏を持つ「The Kaisei」よりもさらに自由なヴァリエーションの形式でかかれています。そして最後のヴァリエーションがコーダを兼ねています。

リハーサルの初日を見学しました。愛すべき後輩たちが必死になって僕の曲と格闘していました。作曲家冥利につきる時です。

松井拓　作編曲家

昭和41年開成高校卒。東京芸術大学音楽部作曲科卒。作曲を石桁真礼生氏に、ピアノを水谷達夫氏に師事。在学中に作曲したミュージカル「白い川」で芸術祭優秀賞を受賞。現在はCM、TVドラマ、映画音楽などを数多く制作。

受験校開成としては、僕も池田も明らかにはみ出し者だったと思います。ごくふつうの開成……の生徒としては、実に楽しい六年間でした。開成時代の素晴らしい思い出と、師、友人たちとのめぐり会いに心から感謝の気持ちを込めて……この拙曲を母校に捧げたいと思います。

（1998年４月４日の新校舎完工記念演奏会プログラムより引用）

なお、この「祝典序曲」は1998年４月４日に公開されたものにパートの追加などさらなる充実を加えたものであり、また今回の演奏が一般に対する初演となります。

校歌　―その主題と変奏―

開成管弦楽団　平山和徳

この度のCD制作にあたり作曲をなさった松井氏が来校されて、リハーサルの様子を見て下さった。その際、質問をさせていただく機会があり、細やかに御教示下さって、後に「あの指揮者なら大丈夫」という過分の太鼓判まで頂戴したことは、本当に光栄な素晴らしい思い出である。多くのアドヴァイスの中で、ひときわ強く私の印象に刻まれたのは、「変わらぬ伝統」という言葉であった。

入学と同時にCDで聴いた「校歌」は、当然のことながら今までの幼稚園歌や小学校校歌とは全く次元の異なる深みを持っていた。歌詞の解釈を音楽の授業でさせられたことも、明確に理解できないものの、伝統の重みを感じさせるものだった。「開成」の精神のエッセンスとして凝縮し、運動会のフィナーレも飾っている。

中学新校舎竣工記念のこけら落としの東京クヴルテットの演奏に続いて、我々のための祝典序曲は、新校舎のお披露目と同時に初演され、私は当時第１ヴァイオリンのパートで、この曲に流れる「主題」のうねり、華やかな変奏に何とも表現できない感銘を覚えた。

そして指揮者となって２回目の演奏会でこの曲を演奏することになり、他の序曲とは異なるかなり個人的な思い入れを以て臨んだのが高一の夏休みだった。団員数も楽器の種類も格段に発達した状況に加え、丁度創立130周年という機会にめぐり会ったことは大変幸運であった。４回の録音の中から選ばれたこの演奏、我々の「校歌」と「伝統」の力に寄せる想いの一端をお汲み取りいただけたら幸いと思います。最後にこのような希有の機会をお与え下さった関係者の方々、支え合った力の数々に心から感謝の意を表したいと想います。

祝典序曲によせて

開成管弦楽団　指揮者　木村祐基

私が、祝典序曲の原曲である弦楽四重奏曲「The Kaisei」を聴いたのは、中学新校舎講堂での“こけら落とし”として行われた東京クヮルテットの演奏会であった。聴衆として当日会場にいた私は、彼らの透き通るような演奏を聴いて感銘を受け、自分や他のメンバーに「演奏してみたい」という気持ちがすぐに湧いてきたことを覚えている。「演奏してみたい」この言葉を受けて作曲者の松井拓氏がオーケストラ用に編曲するという話に膨らんでいったのである。オーケストラ曲として編曲されたものを、私たち開成管弦楽団が新校舎落成記念演奏会で初演できたことを誇りに思っている。

その時の、演奏レベルも東京クヮルテットと比べたら失礼にあたるほどの私たちの演奏を聴いて、聴衆が感動してくださったということがとても嬉しく思ったものである。またこれをきっかけにその後も、改めて弦楽四重奏曲として再編曲したものを東京クヮルテットの演奏によるスタジオ録音の場に同席できたことなど、大変貴重な体験をできた。これからも、開成管弦楽団のスタンダード曲として後輩たちに受け継がれていくことを望みたい。

……

開成管弦楽団　コンサートマスター
田原裕之

僕は、橋本、木村と３人で田園都市線池尻大橋駅近くのポリグラムのスタジオに行った。東京クヮルテットのメンバーはすでに到着

していて楽器の音出しをやっていた。僕たちは、ガラス越しにモニタールームで録音を見ることになった。録音が始まった。驚いたのは４人の「正確さ」への執着だった。５分程度の曲を何回も繰り返し（そのたびに上手くなっていった）それでも満足できないところを繋ぎ合わせたりして１時間以上かけてやっと出来上がった。プロがどういう風に仕事をしているのかがよくわかっていい経験になった。

……

開成管弦楽団部長・第二ヴァイオリン主席
橋本翔

私が祝典序曲を初めて聞いたのは中二の冬だった。よく聴き慣れた校歌をアレンジしたその曲は、初めて聞いたときに「とても親しみやすい曲」という印象を受けたことを覚えている。しかし実際に演奏するとなると非常に大変だった。私は１st・２ndヴァイオリンともに演奏を経験したが、変奏曲だけにリズムや音程を正確に取るのに苦労したのを覚えている。
やがて演奏会に向けて何度も練習していくうちに、やっと曲に慣れることができ、だんだんとヴァイオリンも響き始めてくれた。それにつれて校歌、そして祝典序曲の持つ堂々としながらも若々しいイメージを深く知ることができたと思う。それは私の知る開成健児のイメージそのものであり、高校生のうちに祝典序曲としてこの曲を演奏できたことをとても嬉しく思う。オーケストラの存在もさることながら、学校を思い出させてくれるオーケストラ曲があることはとても素晴らしい事だ。これからもこの『第二の校歌』は開成のオーケストラで演奏されつづけることだろう。

祝典序曲オーケストラ
演奏者名簿

1st Vn.

●☆◎	田原裕之	（高２）
	小関宏明	（高１）
	渋市克彦	（高１）
	千葉厚	（高１）
	久保田大介	（中２）
	曽偉明	（中２）
	石倉駿	（中１）
	江﨑太佑	（ＯＢ）
	福良哲史	（ＯＢ）

2nd Vn.

◎	橋本翔	（高２）
	福家佑	（高１）
	北口善教	（中３）
	中尾克也	（中３）
	宮本佳尚	（中２）
	関口弘晃	（中１）
	加藤久貴	（ＯＢ）

Va.

♪◎	木村祐基	（高２）
	羽深宏樹	（中３）
	田口寛	（中２）
	小鮒勝博	（教員）
	藤村崇	（教員）

Vc.

◎	磯野太佑	（高１）
	岸田航	（高１）
	野島史暁	（中３）
	布施佑馬	（中３）

Cb.

	橋本知幸	（高２）
	西出敏章	（中３）
◎	柴山達治	（教員）

Fl.

◎	松嶋惇	（高１）
	上野哲平	（中３）
	吉澤亮	（中２）

Ob.

◎	上野大樹	（高２）
	浜一朗	（高２）
	三上裕介	（高１）

Cl.

◎	秋元啓孝	（高１）
	伊東翔	（高１）

Fg.

◎	杉悠平	（高１）

Tr.

◎	勝山大輔	（高１）
	堀尾健太	（中３）
	林正人	（教員）

Hr.

●◎	吉浦壮	（高２）
	萩原裕人	（中１）
	江里俊樹	（ＯＢ）

Trb.

◎	山﨑健太	（高２）
	細田一樹	（高２）
	高橋潤	（中３）

Perc.

◎	神田崇史	（中３）
	竹花寛太	（高２）

Cond. 平山和徳 （高２）

◎…パートリーダー、☆…コンサートマスター、♪…インスペクター
●…セクションリーダー

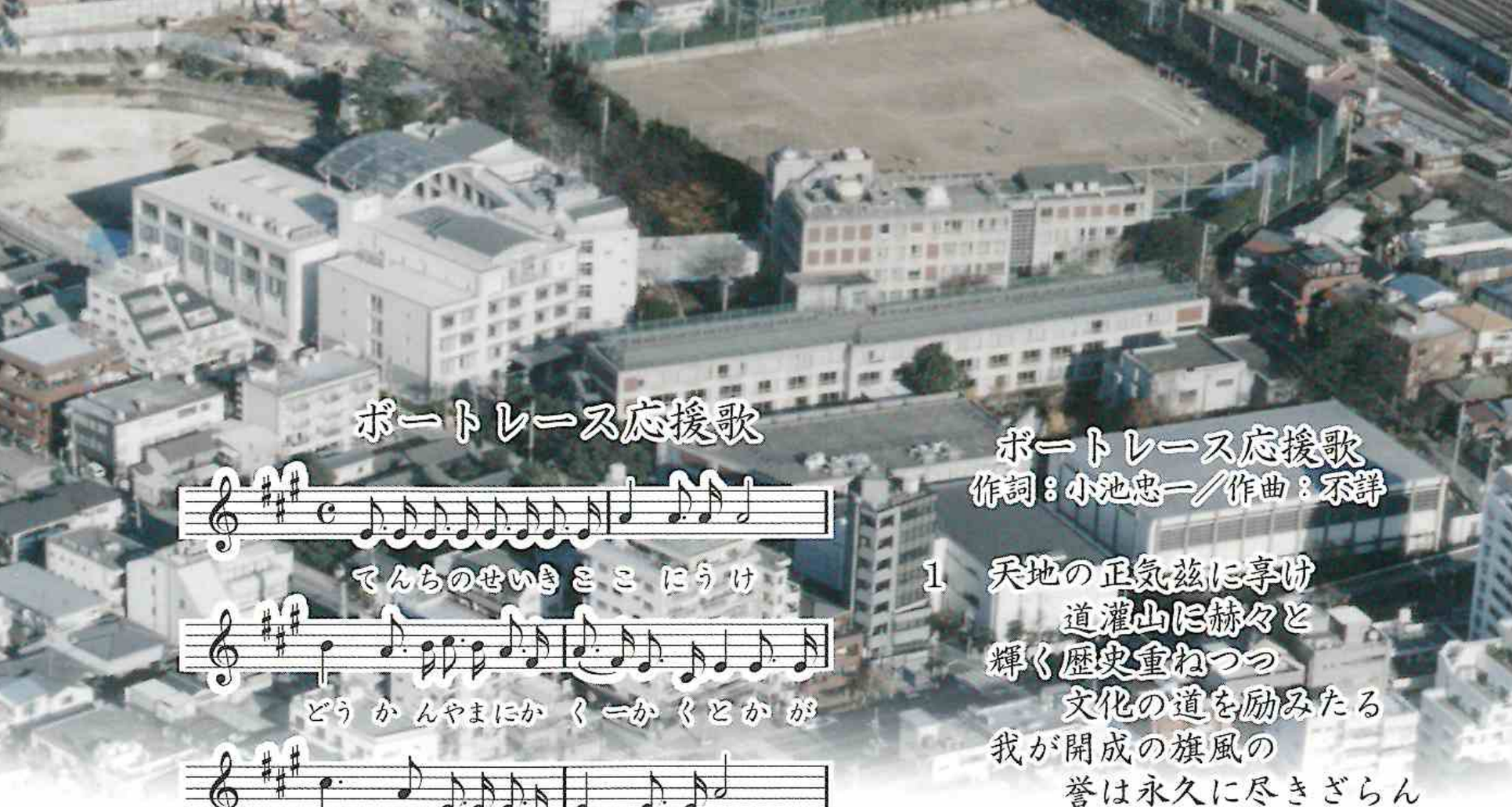
開成楽友協会合唱団

中学
２年
長嶌徹、高力克巳、笹原建司、
高橋正夫
３年
南條竹則、荒井弘之、高淵一幸、
宮川恭介、高木誠、手塚宏之、
渡部陽一、山下雅史、噌西肇、
内田研一、岩崎長久、伊藤保彦、
宣田川宏孝

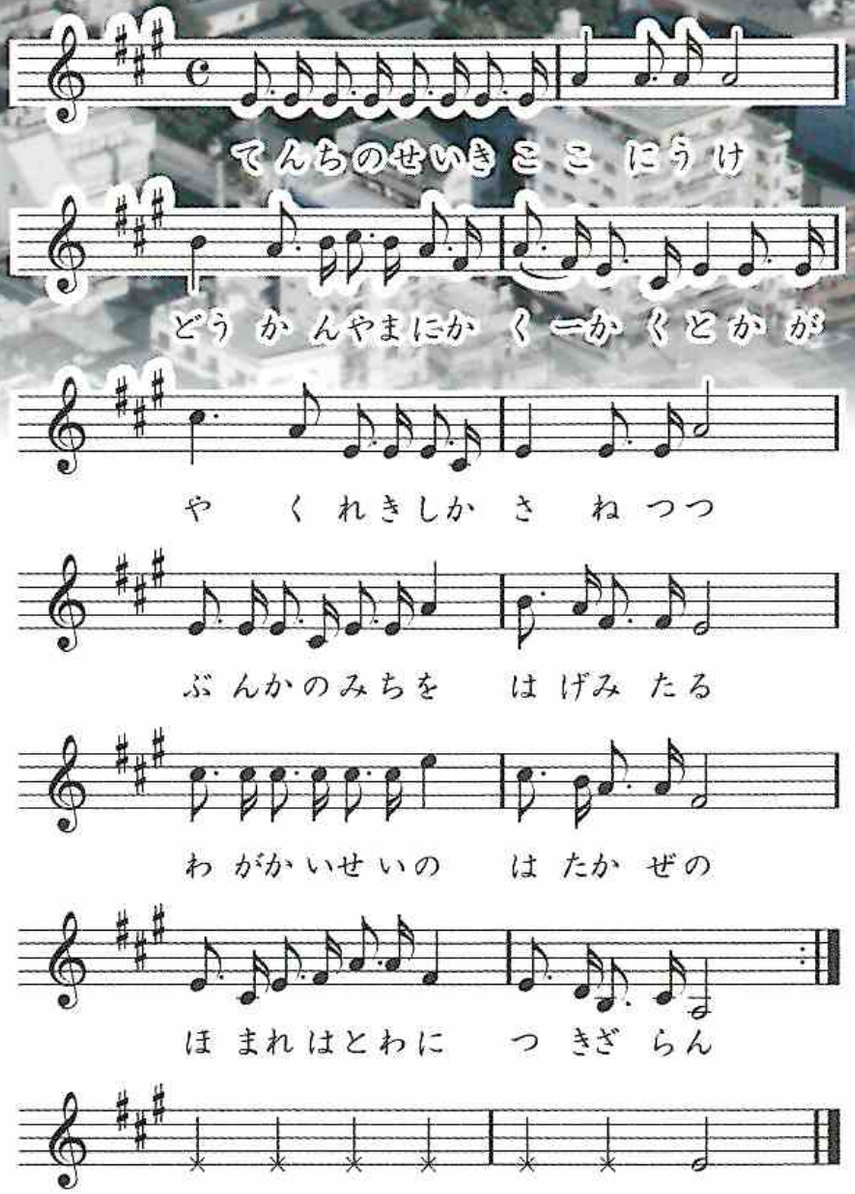
高校
１年
天野正徳、鈴木治仁、野口忠彦、
櫛原洋祐（ピアノ）、富安司郎、
渡辺潔
２年
海老沢純一、栢原武彦、峰島総生、
鞠子純一、大沢秀治、小町博元
３年
村上孝麿、山田耕司（指揮）、
佐志田伸夫、芹沢哲雄、土肥亮一、
田中純

ボートレース応援団

高校３年
川野正之、諸国真太郎、菅沼栄一郎、
堀茂（指揮）、牧田道明、森良雄、
青木高夫、合田宏之、湯村良彦、
新井康久（太鼓）、小沢格、
加藤知道、渡辺純一、天野光一、
石井一郎、木村秀雄、保籐保、
下村嘉章



ボートレース応援歌



ボートレース応援歌

作詞：小池忠一／作曲：不詳

1　天地の正気茲に享け
　　道灌山に赫々と
輝く歴史重ねつつ
　　文化の道を励みたる
我が開成の旗風の
　　誉は永久に尽きざらん

2　鉄石溶くる夏の朝
　　風雪凍る冬の夜
鍛えに鍛えし健男児
　　希望の光仰ぎつつ
ただ猛然と進むこそ
　　わがペン剣の教義なれ

3　此処を晴れなる戦場に
　　オールを揮ふ我が選手
河海を圧するペン剣の
　　旌旗を空に靡かせて
開成健児此処に在り
　　覇権を譲ること勿れ

開成学園創立百三十周年記念
～校歌とボートレース応援歌の歴史～

1．開成学園校歌Ⅰ　（ピアノ独奏～高音部斉唱　1973年録音）
　作詞：古関吉雄／作曲：信時潔
2．開成学園校歌Ⅱ　（低音部斉唱　〃　）
3．開成学園校歌Ⅲ　（二部合唱　〃　）
4．The Kaisei 《東京クヮルテットの為に》（スタジオ録音）
　作曲：松井拓／演奏：東京クヮルテット
5．開成学園校歌Ⅳ　（高音部斉唱　1988年録音）
6．開成学園校歌Ⅴ　（低音部斉唱　〃　）
7．開成学園校歌Ⅵ　（二部合唱　〃　）
8．祝典序曲《信時潔の主題によるオーケストラのための変奏曲》
　作曲：松井拓／演奏：開成管弦楽団／指揮：平山和徳
9．ボートレース応援歌Ⅰ　（戦前の歌唱　1973年録音）
　作詞：小池忠一／作曲：不詳
10．ボートレース応援歌Ⅱ　（現在の歌唱　〃　）
11．ボートレース応援歌Ⅲ　（1988年録音）
12．開成学園校歌Ⅶ　（1936年録音）
　独唱：城多又兵衛（バリトン）
13．The Kaisei　（1997年10月19日のライブ録音　於開成学園）
　演奏：東京クヮルテット